



ともにほほえむ

ほほえみ

齋藤昭子様(89歳) 植木の手入れを欠かさず行い、一年中綺麗な花に囲まれて暮らしています。

公益社団法人日本介護福祉士会・公益社団法人神奈川県介護福祉士会主催 第23回 関東・甲信越ブロック研修会開催

神奈川県介護福祉士会副会長・実行委員長 コッシュ石井 美千代

平成28年11月12日(土)、横浜市中区山下町のホテルメルパーク横浜において、第23回関東・甲信越ブロック研修会を開催しました。350人の募集定員を超える360人余が1都9県より参加し、「介護福祉士としての専門性」～自ら考え、皆で深め、社会に発信!!～をテーマに学び合いました。前日までの真冬のような寒さと淀んだ空が嘘のように、当日は朝一番から晴天で暖かい穏やかな一日となりました。

9時30分の開場とともに多くの参加者が来場し、受付は一気にごった返しましたが、受付スタッフの歓迎の言葉と笑顔に混乱もなく、次々に全体会場に案内されました。10時からの開会式を前に日本介護福祉会倫理綱領の唱和が行われ、開会式では、当会の平野浩子副会長の開会宣言に続き、同野上薫子会長が歓迎の挨拶を述べました。また、主催者である日本介護福祉士会の石本淳也会長が、今後の介護人材のあり方について国で議論



が始まる今この時に、その中核である介護福祉士が、職能団体として、その専門性について発信することは大変意義があると挨拶しました。続いて来賓を代表し、厚生労働省老健局総務課課長補佐の唐戸直樹氏、中島正信神奈川県副知事、細川哲志横浜市健康福祉局高齢健康福祉部長、篠原正治神奈川県社会福祉協議会会長よりご挨拶をいただきました。時間の都合上ご挨拶はいただけませんでしたが、来

賓として、加藤馨神奈川県高齢者福祉施設協議会副会長、伊東一郎神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会会長、山下康神奈川県社会福祉士会会長、池田洋子神奈川県精神保健福祉士協会会長、篠原弘子神奈川県看護協会会長、錠内広之神奈川県作業療法士会会長、成田すみれ神奈川県介護支援専門員協会理事長のご出席をいただきました。

厚生労働省の行政説明では、老健局総務課課長補佐の唐戸直

厚生労働省の行政説明要約

「介護福祉士に求められている課題とは」

厚生労働省老健局総務課課長補佐 唐戸 直樹氏

行政説明では、地域包括ケアの必要性、「まちづくり」のツール、介護離職ゼロと介護人材の確保、新しい福祉ビジョン、介護保険制度の見直しについて説明があった。以下、講演要約。

1. 団塊の世代が75歳以上となる2025年には、高齢者の割合が30%を超える一方、介護保険料を負担する「40歳以上の人口は減少」する。
2. 2025年を目途に、重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを「人生の最後」まで続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制づくりを国をあげて進めている。
3. 「地域包括ケアシステムの推進」によるまちづくり、介護人材の確保のための「介護の職場の魅力向上」、介護離職ゼロにむけての働く家族等に対する「相談・支援の充実」を新3本の矢とする。
4. 特に介護人材確保に関し、職員の資質向上「キャリアパス形成」の仕組みの構築、他産業との「賃金差の解消・賃金の引き上げ」、生産性の向上、

職員の資質向上の「キャリアアップ支援」、文書量半減等の「労働負担軽減」、安心・快適な「職場環境の整備推進」などを図る。

5. 新たな時代に対応した「地域共生社会」を実現するために、①新しい地域包括支援体制②高齢、障害、児童等への総合的な支援の提供③効果的・効率的なサービス提供の為の生産性向上④総合的な人材の育成・確保、の4つの改革を進めるため、国、自治体、社会福祉法人、住民の皆が理念を共有し、それぞれの責務と行動をとることが望まれる。

私たち介護福祉士は手を繋ぎ力を合わせて、資質向上の努力を惜しまず、処遇改善を推し進め、「地域共生社会」の実現にむけて活躍しようではありませんか。

(理事 奈部谷光江)



樹氏より「介護福祉士に求められている課題とは」とのテーマでご講演いただきました。(要約は2頁に掲載)10分の休憩後、(株)日本ヒューマンヘルスケア研究所所長の中村裕子先生より「自らの仕事に誇りを持ち社会的ニーズに応える介護福祉士とは」～専門的知識や技術を活かす生命倫理思考の育成と実践～とのテーマで基調講演をいただきました。(詳細は3頁に掲載)

1時間の昼食休憩の後は、介護福祉士の専門性について9つのテーマに分かれ、グループディスカッションを行いました。これは、従来の分科会形式の受け身の研修会ではなく、参加者一人一人が介護福祉士として自ら

の専門性について語り合うことで、学びがより深まる全員参加型の研修会にしたいとの思いから始まった初の試みです。しかも、関東・甲信越ブロック9都県(神奈川県を除く)で一つずつテーマを分担し、その企画・運営も担当都県にお願いするところも初めての形でした。参加者はそれぞれが希望したテーマに別れ、9テーマ42グループでのディスカッションとなりました。ユニークな導入で和んでからディスカッションを始める県や、ワールドカフェ方式やKJ法をとり入れる県もあり、時間の経過とともに、どのグループにおいても熱気にあふれたディスカッションが繰り広げられま

した。(詳細は4～5頁に掲載)

15時30分からの全体会では、9人の座長からそれぞれのグループディスカッションについての報告をいただきました。

研修会は時間通りに進み、いよいよ閉会式となりました。関東・甲信越ブロック代表の白井幸久東京都介護福祉士会会長より挨拶があり、続いて次回開催県の山梨県介護福祉士会より、甘利俊明会長の挨拶と武田信玄を筆頭に出陣した皆さんのパフォーマンスに会場は一気に和みました。最後に、本研修会実行委員長のコッシュ石井美千代がお礼のあいさつを述べ、第23回関東・甲信越ブロック研修会は無事閉会しました。

基調講演
抄録自らの仕事に誇りを持ち社会的ニーズに応える介護福祉士とは
～ 専門知識や技術を活かす生命倫理的思考の育成と実践 ～日本ヒューマンヘルスケア研究所 所長 中村 裕子氏
前聖隷クリストファー大学大学院教授

我が国に介護福祉士という国家資格を有する介護専門職が誕生して早や30年が過ぎようとしています。今年には認定介護福祉士という上位の資格認定制度も発足し、高齢者福祉の中核的な役割を担う専門職に成長したように思われますが、一方で介護福祉士の処遇や専門性に自信が持てず、介護現場を去る人々も少なくありません。しかし、唯一国家資格を有する介護職である介護福祉士には、特別の役割が法律で託されています。それは、居宅介護サービスにおける責任者となる役割や、介護保険制度における利用者や家族の相談業務や介護実践計画を立案するという“指導的な役割”です。介護福祉士はケアワーカーと英語では翻訳されますが、法律に従って解釈すれば、介護労働者(ケアワーカー)ではなく、むしろケアアシスタントと翻訳されるのが妥当であるように思われます。

このワーカーと翻訳される事実には、日本社会の“介護福祉士の専門性に対する誤解”を見る思いがします。ワーカー(労働の担い手)と思い込んでいる介護福祉士も少なくなく、専門職である介護アシスタントだと自覚する介護福祉士もそう多くはないように思われます。自らの仕事に適切な理解がなければ、仕事内容や専門性を正しく解釈して誇りを持つのは難しいように思われます。

介護福祉士を希望する若者が少ないのは、少子化でもきつい仕事のせいでもなく、介護福祉士として働く人々の姿に“憧れや満足感・明るい未来”を感じる若者の少ないことが、一因であるように考えます。私は教員として、自らの仕事に“誇りと責任を全うする喜び”が実感できる介護福祉士に育ってほしいと願い、いろいろ試行錯誤を繰り返してきました。

何よりもまず力を入れたのは「介護福祉士として、実践する仕事内容が“適切である”と自らの根拠に基づき判断し、自信をもって実践できること」でした。何を拠り所としたら、自らの行為を適切だと判断できるようになるのか、様々な視点から検討・実践を試みた結果、現時点では概ね次の3つの拠り所が確認されました。



判断の拠り所①：ICFの理念(機能向上・QOLの維持向上・尊厳の保持)

介護過程の展開法(アセスメント・計画・実践・評価)

判断の拠り所②：日本国憲法・法律、日本介護福祉士会倫理綱領

判断の拠り所③：生命倫理(特に、応用規範倫理学)・介護の倫理

本基調講演では、これら3つの意義と関係性について説明すると同時に、拠り所①と②の視点は、全て③の『生命倫理』の視点(4つの普遍的倫理の視点)に含まれることを示し、なぜ今「介護実践の現場に倫理的思考が必要とされるのか」について触れたいと思います。次に、実践内容の適切性を判断するための手段、即ち“生命倫理の視点を拠り所”として考える方法について、以下の要領でパワーポイントや資料を用い、具体的事例も紹介しつつ説明を試みたいと考えます。

1. 介護の倫理と生命倫理の関係と役割について
2. 生命倫理的根拠に基づく適切性の判断の基準(普遍的倫理の視点)
3. 普遍的倫理の視点に基づく倫理判断の仕方と意義
4. “倫理的か非倫理的か”の判断基準は?
5. 倫理的ジレンマとは何? 解決の仕方は?
6. 倫理的思考に基づく“倫理的調整・決着・解決”のしかたについて

以上の生命倫理的思考や判断についての学びを通して、介護福祉士の皆様方が、自らの専門性に新たな気づきを得て、自らの仕事に誇りを感じることができ、社会のニーズに応えるべく力量を一層向上されます事を、心より期待致しております。

「介護福祉士としての専門性」 ～自ら考え、皆で深め、社会に発信!!～

受け身ではない、全員参加型の研修会を目指して初挑戦！
グループディスカッションを通して、自らの専門性について語り合おう！！

テーマA 介護福祉士の技術力

A
①

「介護技術」 担当：栃木県介護福祉士会

座長：青柳達巳氏 話題提供者：齋藤和孝氏 参加者33名（5グループ）

介護の基本・自立支援・根拠のある介護技術についてディスカッションしました。まずボディメカニズムの原理を実際に椅子等を使って体験しました。体験したことで原理の再確認ができたようです。次にBSとKJ法の手法で『移動・移乗の介護は何か大切か。どうあるべきか。』を各グループで検討しました。現場の介護技術からの発言や各自の理念に基づいた提案が次々出され盛り上がっていききました。最後に『専門性のある介護技術』を文章化し、発表しました。参加者は介護の現場に活かしたい思いを強く持たれたようです。（グループ担当 炭竈 美枝）

A
②

「コミュニケーション」 担当：群馬県介護福祉士会

座長：小池昭雅氏 話題提供者：佐藤 剛氏 参加者36名（4グループ）

コミュニケーション力をどう養っていくかについてディスカッションしました。どのグループも他の方の意見に対し真剣に耳を傾け、参加者全員が自分の意見を述べる形で進行されました。内容が深まるとともに参加者の表情もにこやかで、ディスカッションしやすい雰囲気でした。学生からは「見守りというコミュニケーションもあるのか」という質問が出され、介護に欠かせない技術にコミュニケーション力があると再認識されたようです。（グループ担当 田川 和子）

A
③

「介護過程の展開」 担当：東京都介護福祉士会

座長：佐々木幸氏 話題提供者：平塚裕治氏、宮田真紀子氏 参加者36名（4グループ）

介護過程が利用者の役に立ち、チームでの実践で役立つためには、どのような取り組みが必要かディスカッションしました。2人の話題提供者がそれぞれ事例を準備していました。参加者は4グループを二つに分け、2グループが1つの事例を、さらに1グループを4人から5人の少人数でディスカッションしました。事例内容への質問に時間が使われ、ディスカッション時間は足りない様子でした。参加者からは自らの経験を基にした考えが出され、多くの学びがありました。

（グループ担当 田川 和子）



標記研修会は実行委員会を2015年1月に立ち上げ、約2年の間に14回の実行委員会を開催し、その準備を進めてきました。実行委員のみなさんに感想を寄せいただきました。

グループ ディスカッション担当

田口久美子

グループディスカッションの責任者として8人の仲間と関わらせていただきました。皆忙しいためほとんど打ち合わせができず、当日はどのような事かと思いましたが、「さすが介護福祉士」「介護福祉士の底力見たり」という印象でした。とっさのトラブルもあっという間に対応、解決。この介護福祉士会はこの底力が支えているのでしょうか。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ **テーマC 介護福祉士のマネジメント力** ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

C
①

【地域連携】 担当：長野県介護福祉士会

座長：原田 剛氏 話題提供者：神林克彦氏 参加者35名 (4グループ)

座長・発題者が事前にディスカッションのタイムスケジュールを持参していて打ち合わせがスムーズに行えました。4グループでしたが、どのグループも司会・書記・発表者をそれぞれの決め方(じゃんけんなど)で決め、進めていました。模造紙に書いて発表という流れも途中、わからないことは各グループからの挙手で質問しながらまとめていました。(グループ担当 前川 和子)

C
②

【リーダーシップ】 担当：茨城県介護福祉士会

座長：沼田正人氏 話題提供者：森 久紀氏 参加者23名 (2グループ)

2グループでのディスカッションでした。模造紙2枚、KJ方式を用いてということで開始しました。2グループ対照的で、1グループはすぐにKJ方式に付箋に書き出し積極的にディスカッションが進行し2枚の模造紙を仕上げ、グループの和ができていました。2グループは司会が聞き役になってしまい、テーマも理想の上司になりフリートークでまとまらない状況で、模造紙は全く使わない発表となりました。座長・発題者の方もグループの中に入っていたので、アドバイスがあればよかったのではと感じました。(グループ担当 前川 和子)

C
③

【組織運営】 担当：千葉県介護福祉士会

座長：山本英清氏 話題提供者：松土明彦氏 参加者37名 (6グループ)

参加者の方々は、5テーブルに分かれて自己紹介をした後、意見交換が始まりました。日頃の実践を熱く語る人、またそれに熱心に聞き入る人など、白熱した意見交換が行われていました。限られた時間の中で、十分に思いを伝え、その思いを受け取るということができなかったこともあったと思いますが、日頃、自分たちが提供しているサービスのあり方について省察することができたように思います。また、このような専門職同士の意見交換を通して、明日への『元気』をいただきました。(グループ担当 金井 直子)



広報・記録担当

浦野直子

主に抄録(冊子)発行までの担当と書籍販売係を担当しました。原稿を集め編集をするだけなのですが、お預かりした原稿だからか…緊張するモノですね(笑)。当日は全国社会福祉協議会の代形で、本の販売をいたしました。立ち寄って下さった皆様ありがとうございます。お蔭様で全社協の人が驚くほどの売上を出すことができ、売上の一部で専門書を11冊購入しました。皆さんも是非ご利用くださいね。お手伝いいただいた方々、感謝!です。一日中本屋さんでしたけどとても楽しかったです。

内田竹伸

仕事と家族の介護、育児でしっかり関われず、他の実行委員の皆さんにお任せしてしまった部分が多かった実行委員でした……。一応広報担当として、広告の編集を担当しました。集まった原稿は、サイズが規程のサイズと異なったり、データの種類がマチマチだったり、取りまとめに一苦労ありました。データをプリントスクリーンで切り取り、ペイントでトリミングしたりと細々した作業に四苦八苦、本業の繁忙期と重なり、締切り日は、朝3時起きでなんとかまとめて印刷屋さんに入稿する事が出来ました。



道の向こうは山下公園、その向こうは、横浜港ですよ

写真で見る関ブロ



いよいよ研修会が始まりますよ



神奈川県介護福祉士会野上薫子会長の「歓迎の言葉」



日本介護福祉士会石本淳也会長



ホテルメルパルク横浜 自慢の中華弁当



9人の座長がグループディスカッションについて報告しました



来年度は山梨県介護福祉士会が担当です



第23回 関東・甲信越ブロック研修会、無事終了！ 実行委員、運営スタッフのみなさん、お疲れ様でした～！！

会場案内担当

鈴木 真

今回、前準備である道路の使用許可はコッシュ石井実行委員長が手続きをしてくださいました。届け出通りの立て看板を作り、事前の説明会に間に合うように徹夜で仕上げましたが、運営スタッフのメンバーから看板の周りはジャンパーと同じ色が良いと希望があり、当日の朝、ピンクに変えました。当日は晴天ながら外気は寒くその中での活動となりましたが、メンバーの皆さんの協力もあり事故もなく終えることができました。ありがとうございました。

川原俊一郎

皆様の多大なるご協力のお陰で、大変盛況のうちに閉会することができました。関東・甲信越ブロック研修会に携われたことをうれしく感じております。実行委員として開催要綱の作成と当日の会場係の責任者を担当しましたが、準備期間が一瞬のうちに経過し、気が付けば開催直前という日々でした。参加して下さる方に少しでも心地よく過ごしていただけるよう努めたつもりですが、終わってみれば、反省ばかり……。この経験を介護福祉士として無駄にせぬよう、今後も専門職としての誇りを持って活動していきます！

11月11日は「介護の日」

～いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう～

第9回「介護の日」記念 介護セミナー2016 開催

11月3日(木)10時30分～15時30分まで横浜新都市プラザ(横浜そごう前イベント広場)において標記イベントを開催しました。開始と同時にセミナーへの参加の呼びかけと、介護の日のPRや介護福祉士の案内、「見て、聞いて、体験して～介護フェア in かながわ」のチラシを入れたクリアファイル(東洋羽毛提供)1,100部の手渡しを行いました。今回は、11月23日初開催の「介護フェア in かながわ」(主催:神奈川県)のPRもあり、神奈川県地域福祉課の職員、神奈川新聞社の担当者、神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会の先生や学生も協力して下さいました。



セミナーでは介護相談と介護技術講習、介護劇・介護予防体操、介護に関する情報提供等を行いました。介護予防体操から介護劇・介護技術講習は一連の流れで行いましたが、今回は合間に介護劇のアドリブもあり参加された人が飽きる事なく関心を持って頂くことができました。

天候にも恵まれ、休日ということもあり、人出が多く1,100部のクリアファイルが午前中で配布完了となるなど、大変盛況なセミナーとなりました。(広報委員 小野真弓)

第1回

見て 聞いて 体験して

「介護フェア in かながわ」開催

11月23日(水・祝)11:00～16:30
新都市ホール(そごう横浜店9階)において標記イベントが開催された。当日は「かながわベスト介護セレクト20」「かながわ感動介護大賞」の表彰もおこなわれ、子連れのパパから、お年寄りまで約1,200人が参加した。介護福祉士会は介護相談コーナーを担当し、現在介護をしている方やこれから介護をする方、資格の取り方などの相談者が23名あった。

「第23回日本介護福祉士会全国大会・第14回日本介護学会 in おおいた」開催

11月25日(金)・26日の両日、別府コンベンションセンター(ビーコンプラザ)において、標記研修会が開催された。テーマは「ひろげようネットワーク!介護福祉士からの提言」～利用者やささえる専門職の輪～である。今回から全国大会と学会が同時開催になった関係からか、参加者は800名余りあったがまだまだ収容可能なほどの大きな会場であった。神奈川県からは16名が参加し、第1分科会では富樫健人さん(医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院看護部)、第2分科会では金井直子さん(日本福祉教育専門学校)、第3分科会では小玉達也さん(医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院看護部)の3名が発表した。

来年は7月14日・15日に富山県にて開催される。



今号は、2016年度最大の催し、関東・甲信越ブロック研修会の特集号にしました。広報誌「ほほえみ」を通して、「介護福祉士の専門性」

を社会に発信!!します。今年も1年お世話になりました。みなさま、どうぞよいお年をお迎えください。

広報委員一同



ほほえみ 52号

平成28年12月25日

発行 公益社団法人神奈川県介護福祉士会

会長 野上 薫子

横浜市中区海岸通4丁目23番地 マリンビル305

電話 045(319)6687 FAX 045(222)6676

E-mail: info@kanagawa-accw.org

印刷 吾妻印刷株式会社 電話 045(730)5161